

JACROW #24

焰

～ほむら～

脚本 中村ノブアキ

登場人物

イチバ自動車

木須亜希子（42）部長
野中豊則（44）次長
立実健司（40）主任
張本淳子（38）社員
別府大作（37）社員

カワマツエナジー

茂弘達仁（46）部長
真野利彦（40）課長
小枘薫（32）課長補佐
先山真也（36）社員
下尾真弓（29）社員

舞台は2つの場所で展開する。

【イチバ自動車のオフィス】と【カワマツエナジーのオフィス】である。

個人のデスクと簡易な応接セットがあり、それぞれのオフィスとして使用する。

前説。

前説

本日は（中略）それでは最後までどうぞごゆっくりご覧ください。

【シーンの 記者会見】

前説が深々と頭を下げた瞬間、充電池の異音が入ってくる。

木須、野中が一入ってきて、同じく頭を下げる。同時にフラッシュが焚かれ、5人の記者たちが入ってくる。

記者1 町田社長ご自身、アイレの航続距離に不正があったと認めるんですね？

記者2 電気自動車における燃費を電費というようですが、本来の電費とどのくらいの乖離があったんでしょうか？

記者3 木須部長にお聞きしたいんですが、不正は意図的だったんですか？

記者4 イチバ自動車はアイレを何台生産したんでしょうか？

ゆっくりと暗転。

記者5 ゴビ自動車との販売提携が不正発覚のきっかけになったということですね？

【シーン1 イチバ】

記者3 野中次長、国内販売された新車は何台なんですか？

終業BGMが鳴る。

記者5 木須部長にお聞きしたいんですが、不正は意図的だったんですか？

NA

記者1 今まで買われたお客様への補償はどうするんでしょうか？

6時になりました。今日はノー残業デーです。10分後に全館消灯します。業務に区切りをつけてみなさん早く帰宅しましょう。今日も一日お疲れさまでした。

記者2 イチバ自動車はアイレを何台生産したんでしょうか？

別府はPCを見ている。

記者4 電気自動車における燃費を電費というそうですが、本来の電費とどのくらいの乖離があったんでしょうか？

立実はテーブルで新聞を読んでいる。
2人とも珈琲を飲みながら。

記者5 リコールということの間違いはないでしょうか？

立実

記者1 ゴビ自動車との販売提携が不正発覚のきっかけになったということですね？

裁量労働制。冗談じゃない。撤回だよ。撤回。…霞が関も永田町も、現場を見てない。だからこういうことになった。…何をやってんだ野党は。

記者4 社長は開発計画をどこまで把握されていたんでしょうか？

しばし間。

記者3 町田社長ご自身、アイレの航続距離に不正があったと認めるんですね？

別府

カーリング女子、イギリスに負けたみたいですね。…次のスイスに勝てば準決勝進出だそうです。…素朴でいいですね。彼女たち。…あ、別にタイプとかそういうことじゃないすからね。

一瞬間。

記者2 不正の内容と経緯を教えてください。

立実

…タイプなんすけどね。

頭を上げる町田（前説）、木須、野中。

立実

…俺はどっちかって言うとスピードスケートの、

別府 あ、出ました。：経済産業省、給油所でEV充電。速報出ましたね。

立実 なんだって？

別府 ああはい。えっと、：現状ではEV向けの充電設備を設ける場合、ガソリンの給油スペースから近くても10メートルほど離れた場所にしか設置できないため、手狭な給油所では制約があった。安全性への検証を進めつつこの規制を緩和、早ければ2019年度にも規制緩和に踏み切る。以上です。よし。

立実 アイレ、売れちゃいますね。

別府 それで今、部長たちが11階に呼ばれてる。

立実 ですよ。なんなんすか？

別府 臨時経営会議だと。アイレの開発コンセプトをもう一度議論したいんだってさ。

立実 え？いやだってもう進んでるじゃないすか。それこそ経営の承認もらって。え？何を今さら。

別府 だよな。

立実 開発コンセプトって、まさか電池すか？

別府 うちらパワーユニット開発部が呼ばれたってことは、

立実 そういうことだろ。

別府 電池の性能上げると。

立実 航続距離をもっと伸ばせてことだよ。

別府 400キロであればLを抜いてNO1になるからいいって。そう言ったの社長自身ですよ。

立実 NO1って言っても、国内メーカーだけの話。ヨーロッパ勢がモーターショーで発表した航続距離、

立実 お前も知ってるだろ。

別府 Vが600キロって宣言してました。だよな。

立実 2020年って、あと2年ですよ。すげーなって素直に思いましたよ。

別府 ようやくEVの開発競争が本格化する。

立実 「これからは電気自動車の時代が来る」って言われても来なかったですから。

別府 インフラの問題が大きかったからな。でも規制緩和で充電設備が増えれば、状況が一変する。

立実 :また開発やり直すんですか？

別府 たぶんな。

立実 ええええ、ちよっとそれ。なんすかそれ。2年かけてようやく目標の400キロをクリアしたつうのに。今までの努力が無駄になるってことすよ。

別府 現場見てないんだよ。11階も。

立実 ホント勘弁してほしいすよ。えー、また1からすか。

別府 しばし間。

立実 400から何キロになるんすかね？

別府 さあな。製品企画部様が経営に渡した分析次第ってとこだ。

立実 ホント余計なことしてくれまますよ。

別府 現場の感覚がわかる経営層であれば、冷静な判断ができるんだけどな。

立実

別府

別府

今のイチバ自動車じゃ永遠に無理ですね。社長がずーっとイチバ商事の人ですから。：420くらいすかね？

立実

：別府、今日、予定ある？

別府

あ、いや、今日はちよっと。

立実

なんだよ、デートかよ。

別府

はい。

立実

じゃあまた今度な。

別府

お願いします。

しばし間。

立実

あつたかくなったら豊洲のバーベキュー行かない？
なんすかそれ。
知らねーのかよ。豊洲にあるバーベキュー施設。

と言ってスマホを操作、画面を見せながら。

立実

こつからならゆりかもめ1本で行ける。

別府

へえ。いいんすかここ。

立実

いいよ。何にも持って行かなくていいし。

別府

それ普通ですよ。

立実

いやそれが普通じゃないんだよ。おしゃれだし。そこで結婚式もできるからね。

別府

へえ、あ、ホントだ。面白そうすね。

立実

その別府の彼女も連れて来いよ。うちら家族とさ。

別府

4月から5月。どう？
言っときます。

立実

めっちゃいいから。

別府

立実主任、ホントキャンプ好きすよね。

立実

キャンプじゃない。グランピングと言え。グランピング。

別府

はいはい。でも：

立実

なんだよ。

そこに木須、野中が険しい顔で入ってくる。

別府

木須部長の話次第じゃないすか。

立実

：
何？何の話？

立実

バーベキュー誘ったんですよ。彼女連れてこいって。なかなか彼女紹介しないから、実は彼女がいるっていうのブラフじゃないかって。野中次長が言ったんです。

別府

え？

野中

おい、俺だけじゃねえだろ。立実も言ってたじゃねえか。

立実

いやー僕は言っていないですよ。

別府

え？え？え？

野中

おい嘘つくなよ。

別府

いいじゃないすか。僕の話は。

野中

だから実はあるんじやないかって話になつて。

木須

ちよっとそういうデリカシーのない話やめなさい。

立実

いいじゃない。別府くんが誰と付き合おうと。そりゃもちろんいいですよ。

野中 　　ダイバーシティですから。俺たち。
別府 　　ノーマルですよ僕は。…そっちの趣味はありません。
立実 　　それより大事な話があるんじゃないすか。
木須 　　…座って。
　　　　　やっぱ規制緩和の件でした？

4人ともデスクに集合する。

木須 　　いい？これは経営判断です。…今の電池では戦えないだろう。規制緩和によって競合は必ず2019年には飛躍的な性能を持つEVを投入してくるはず。国内メーカーだけじゃなく、輸入車も。そんな時うちのアイレが航続距離400キロしか出せなかったら、生活者からまったく見向きもされない、売れない車になるだろうって。

野中 　　なんでその時部長は言わなかったんですか？我々は皆さんの指示通り、目標の400キロをクリアした電池を開発したって。それも2年かけて。

木須 　　言っても意味ないことはわかっているじゃない。それでも現場は必死だと伝えることは無駄じゃないと思います。
木須 　　無駄よ。必死なのは現場だけじゃない。経営も必死なの。イチバ自動車が生き残るために必死なのよ。

しばし間。

立実 　　何キロなんですか？経営が示した航続距離は500キロ。
木須 　　

立実・別府 え？
立実 　　500キロ？
木須 　　今度は1年以内。今のコストは維持したまま、という指示よ。

絶句する2人。

立実 　　無理ですよ。無理に決まっているじゃないですか。俺もそう言った。それは無理だって。でも部長は「わかりました」しか言わなかった。

野中 　　当たり前じゃない。経営は勝てるシナリオを書くのが役割で、私たちはそれを実現するのが役割なんだから。

立実 　　だから黙って従えと。

木須 　　私たちは雇われてる身。無理とかそういう話は聞きたくありません。どうすればこの目標をクリアできるのか、そういう前向きな姿勢で議論を進めてほしいです。

立実 　　部長は一体どっちの味方なんですか！…すいません。今のなしです。

木須 　　私にはEV事業推進室パワートユニット開発部の部長として、部員の力を結集させ、プロジェクトを成功に導く役割があります。みんなの味方なのは当然じゃない。

そこに張本がやってくる。
完全な私服姿。

別府 張本さん！
張本 ご無沙汰してます。

座っていた4人、口々に驚きの声とともに張本に近寄る。

野中 どうしたんだよ？

張本 来週から復帰するんで、人事から手続きに来いって。ああそうかそうか。来週から1年ぶりの社会復帰か。はい。またよろしくお願いします。

野中 こちらこそ。

木須 無理しなくていいからね。

張本 ありがとうございます。

立実 あっちゃんは今？連れてきてない？

張本 今、母親に看てもらってる。

野中 あっちゃんって言うのか？子ども。

立実 実はここツイッターで繋がってて、はりじゅん、子どものこと結構呟いてるから知ってるだけです。

張本 (笑) この前も立実さんリプライで「あっちゃん、元氣くにつこり顔文字」みたいな送ってきて。あ、うちの子、敦子って言うんです。

別府 へえ。あ、女の子なんすね。

張本 はい。

立実 保育園に入れるためにお花茶屋に引っ越したんですよ。

張本 世田谷区は倍率厳しくて、私が働くためには保育園が必須だったんで。

別府 お花茶屋？ってなんかかわいい名前すね。どこなんすか？

野中 墨田区だよ。これだから田園調布育ちは困るなあ。

別府 いやいや全然関係ないすそれは。知ってました？墨田区にお花茶屋があんの。

木須 ええまあ。私の前の旦那が東京東部を管轄してた営業だったから。

別府 あ、そうだったんすね。

木須 だから知ってますよ。お花茶屋が葛飾区だったこと。

野中 え？…あ、そうそう。お花茶屋は葛飾区。葛飾区でした。

張本 時短勤務になりますよ、来週から、墨田区のような葛飾区から通うんで、よろしくお願いします。

4人、口々に「こちらこそ」みたいな返事。

張本 人事ってフロア変わりました？9階行ったら全然違ってて。

立実 ああ、そういえば8階になったかも。(腕時計)早く行かないと、今日はノー残業デー。

張本 え？あやばい。

立実 案内するから付いてきて。

張本 はい。

立実 立実が去る。

別府 張本さん。

張本 なに？

張本

別府 (スマホを掲げて) 僕もフォローしていいですか？
張本 いいよ。

と言って、張本、去る。
野中、スマホを取り出し、

野中 カワマツエナジーに電話入れときます。明日、そっ
ちに行くって。いいですよね？

木須 よろしくお願ひ。
野中 立実には自分から言っておきます。
木須 そうしてくれる。

野中 はい。(電話) あ、もしもし、イチバ自動車の野中
です。お世話になってます。茂弘部長お願ひします。
：あ、茂弘部長ですか。イチバの野中です。どうも
いつもお世話になってます。：実はアイレのリオン
電池の件なんです。ちよっと大変なことになって
しまってます。：ええまあそうですね。それ
で明日そちらに行こうかと思っただけです。：はい。
宇都宮です。

と言いながら部屋の外へ。
別府、珈琲を給湯室に持って行こうとした時、
部屋が消灯する。

木須 別府くん。
別府 はい？
木須 私もフォローしていい？
別府 ……

木須 今日、バーベキューがいいんだけど。
別府 じゃあいつもの店で。
木須 OK。

転換。

【シーン2 カワマツ】

真野、先山、下尾は栃木弁である。
茂弘、真野が並んで入ってくる。

真野 イチバさんが来るってどういうことですかね？
茂弘 さあ。なんか緊急の用事だから直接お話ししたい
て。

真野 不具合でもあったんですかね？
茂弘 さあ。そんなことはないと思うがね。

真野 じゃあ緊急ってどういうことですかね？

茂弘 さあ。だから直接話したいって来るから。直接聞け
ばいいんじゃないか。

真野 不具合でもあったんですかね？

茂弘 知らんよ。だからもう来るから、直接聞いてくれよ。
真野 はい。したっけそうします。

2人、デスクに座る。
やがて研究室から入ってくる小柘と下尾。
2人とも実験着である。
着替えながら、

下尾 えー、そんなに行ってるんですか？
 小榎 だから月初めは超貧乏。それでも行っちゃうんだけ
 どね。寂しいから2人で。
 下尾 そりゃあ寂しいですよね。
 小榎 寂しいよ。こっち友達いないし。遊ぶとこないし。
 下尾 えー、別に遊ばなくてもいいじゃないですか。
 小榎 俺はいいんだけど、茂弘部長は単身赴任じゃん。だ
 から相当羽伸ばしてる。
 下尾 へー。どんなタイプなんですか？その気に入ってる
 キャバ嬢って。
 小榎 俺が指名してる子は、なんていうか大柄で外人っぽ
 い感じで、茂弘部長が指名してる子は、えっと、(茂
 弘に) ななみちゃんに似てる芸能人って誰でしたっ
 け？
 小榎 誰でしたっけ？
 茂弘 (咳払い)
 小榎 (コソコソと会話を続ける) 部長曰く、バレない浮
 気は浮気じゃないんだって。
 下尾 えー。..
 小榎 だって知らないってことは、そんなことなかったっ
 てことですよ。
 茂弘 (咳払い)
 小榎 逆に、知らない方がよかったってことない？
 下尾 うーん、今のところないですね。

小榎 あそう。必ずしもすべてをぶっちゃけることがいい
 とは限らないと思うんだけどね。
 下尾 そうですかね？私は全部知りたいですけど。彼のこ
 とは。
 小榎 え？マジで？こわっ。
 下尾 え？なんで？
 小榎 なんかつべてを握りたいって感じ。
 下尾 あ、そういうの私、好きです。影のシャドーって呼
 んでください。
 小榎 …まゆみん、来月30になるんだよね？
 下尾 そうなんです。
 小榎 とても俺の3つ下とは思えない。
 下尾 そうですか？
 小榎 うん。ねえ、真野さん？
 真野 え？
 小榎 真野さんもそう思うよね？
 真野 何がですか？
 小榎 聞いてなかった？
 真野 はい。
 小榎 あそう。なんか時々、噛み合わない気がするんだけ
 ど、気のせいかな？
 真野 気のせいですよ。…(下尾に) 影のフィクサーね。
 2人、実験着を片付ける。
 茂弘のデスクに外線が入る。
 茂弘 (電話) はい。カワマツエナジー、オートモーティ
 ブ事業部です。…ああ先山くん。…今、1階？…わ

下尾 かった。そのまま3階に案内して。…で、イチバさんは何人？…わかった。(切る)…下尾さん。
はい。

茂弘 お茶4つ、お願い。

下尾 はい。

茂弘 あと例のものを2つ用意しといてください。まだ冷凍庫にあったよね？

下尾 (微笑) わかりました。

下尾、給湯室へ。

茂弘 真野課長、一緒に話を聞いてください。

真野 なんの話なんですかね？

茂弘 ……

小枘 茂弘部長、私も同席しましょうか？

茂弘 ……お願いします。(給湯室に向かって)下尾さん、お茶5つにして。…わざわざ東京から来るということ
は、相当な用件だと思っていいいでしょう。そのつもりでいてください。

真野・小枘 はい。

真野 なんの話だと思えますか？

小枘 この前納品した電池がトラブったんじゃないの。

真野 量産初号品が？

小枘 試験走行で400キロ持たなかったんじゃない？

真野 それがないことは小枘さんもわかっていますよね？

エレベータ到着の音。

小枘 じゃあ発火？するわけじゃないよな。
真野 するわけじゃないです。

先山、野中、立実が入ってくる。

茂弘 野中次長、立実主任、遠いところをお越しいただき、

野中 ありがとうございます。

茂弘 ああいやいや。こっちが行くって言ったわけですから。

茂弘 えーじゃあ、どうぞ。

5人、応接セットに座る。

下尾が珈琲を持ってくる。

紙袋をどこかに置いて。

下尾 どうぞ。

野中 すいません。

立実 ありがとうございます。

野中 駅前の再開発やと進むようですね。

茂弘 ええ、ようやく市が動き始めました。

野中 経緯は車の中で先山さんから聞きました。

茂弘 要は行政の計画が甘かったんです。

野中 結果論で言えば、そうですね。

立実 計画が甘いのは宇都宮市だけじゃないですよ。

野中 ……うちも人のこと言えんな。

茂弘 ……ご用件はなんでしょうか？

しばし間。

野中 今からお話することはイチバ自動車の取締役会で決まったことです。

茂弘 はい。

野中 御社に発注したりオン電池なんですけど…もう一度作り直してほしいんです。

茂弘 ……どういう意味でしょうか？

野中 充電設備の件、規制緩和の動きがあるのはご存知ですよね？

茂弘 それはもちろん。

野中 検討を重ねた結果、EV市場が今後ますます競争激化するだろうって予測をしまして。

茂弘 それはまあそうでしょうね。

野中 だからこそ。リオン電池の計画を一から見直したいんです。

先山 一からってどういうことですか？

野中 あいや一からっていうのは大きいですね。正確に言えば、これから先の開発計画を前倒ししてほしいというのが弊社からの依頼です。

茂弘 前倒し？

野中 今度のアイレに搭載するリオン電池なんですけど、航続距離を伸ばしたものに改良していただきたいのです。

茂弘 初号品はもう納品してますよね？

野中 ですからそれはそれ。新たにもう一度、トライしてほしいんです。

茂弘 今の400キロじゃ足りないよ。

野中 そういうことです。

茂弘 何キロなんですか？新しい目標は？

野中、立実に見配せ。

立実、ファイルから書類を出す。

茂弘 500キロ！

小枘 500？100キロも伸ばせっていうんですか？

野中 はい。それも1年以内に。

絶句するカワマツエナジー。

茂弘 500キロを1年以内に？

真野 今の初号品を開発するのに掛かった期間、ご存知ですよね？

野中 もちろん。オーダーしたのは我々だ。

真野 50キロ伸ばすのに2年掛かりました。それも本来なら3年掛かるところをみんなで頑張つて、やっと達成したんです。イチバ自動車さんのために。

野中 その頑張りには敬意を表します。さすがカワマツエナジーさんだと思いました。

真野 「これでアイレは売れる」って、感謝の言葉を言ってくれたじゃないですか。

野中 ……

立実 (立ち上がり) 弊社の甘い計画のせいで、皆さんにご迷惑をお掛けすることになってしまいました。心よりお詫びします。ホントに申し訳ありません。

と言って、深々と頭を下げる。

先山 や、謝られたって無理なもんは無理ですよ。

野中 無理ですか。

茂弘 私たちは下請けだ。簡単に無理なんて言うもんじゃない。

先山 や、できる可能性があるんなら、やりますよ。休み

返上してでもね。でもどう考えたって無理に決まっ

野中 てんじゃないですか。

先山 皆さんの気持ちは痛いほどわかります。

野中 や気持ちじゃなくって、それをやってももらわないと、この取引はなかったこ

茂弘 とうになります。

どういう意味ですか？

しばし間。

野中 他社さんをお願いします。ある会社と裏が取れてま

真野 もうですか？

野中 はい。

小枘 ここまでやったうちを今さら見捨てるんですか？

野中 私も御社以外ありえないと思ってますよ。2年。こ

真野 こまで頑張ってもらった。しかしこれ（書類）が社

野中 の経営判断である以上、できないと言われたら…

真野 その他社さんつーのはどちらさんですかね？

真野 …それは言えません。

真野 （立実）言えないですか？

立実 …すいません。

野中 これ（書類）が無理難題であることは百も承知です。

茂弘 ですが、売れないとわかってる車を作ることはでき

ない。弊社の立場もご理解いただきたい。

野中 私としては無理だと言いたくない。喜んで受けたい

茂弘 と思っております。

野中 さわつくカワマツエナジー。

茂弘 さすが茂弘部長。力強い言葉だ。イチバ自動車を代

野中 表して、あいやしかし、さすがに私の一存では決められませ

茂弘 ん。それはそうでしょう。返事は今じゃなくても構いま

野中 せん。今から川松に会ってもらえませんか？

茂弘 川松社長に？今から？

野中 はい。イチバさんの意向を直に伝えてもらいたいん

茂弘 です。その上で社長の判断を仰ぎたい。

小枘 わかりました。お会いしましょう。

茂弘 あー小枘くん、一緒に来てくれるか。

野中 喜んで。

立実 茂弘、小枘、野中が行こうとする。

野中 立実主任。

立実 はい。

立実

立実

立実

立実

立実

茂弘 終わったら連絡するから、そしたら車を正面に回し
といてください。

先山 はい。
下尾 あ、これ。

と言って紙袋を野中と立実に渡す。

野中 いつもいつもありがとうございます。

立実 あの、さすがに今回は…

下尾 そんなこと言わないでくださいよお。大したもんじ
やないんで、もらってください。

茂弘 それ、下尾の実家で作ったものだって知ってまし
た？

野中 え？下尾さんの実家、餃子屋さんなんですか？

下尾 はい。母がお店をやってんですよお。

野中 これ持って帰ると、家族が大喜びするんですよ。め
ちやくちや美味しいから。

下尾 どーもー。母も喜びます。

野中 遠慮するのも失礼だ。ご厚意は受け取った方がいい。

立実 ホントにどうもすいません。

下尾 いいえー。それとこれは別ですから。

立実 それじゃお言葉に甘えて。

下尾 はい。

4人、出て行く。

3人、自席に座り仕事を始める。
が、すぐに真野、立ち上がり、

真野 (タバコ) 行がね？

先山 や僕は。

真野 あそう。珍しーねー。

先山 実は…止めようと思ってんです。

真野 え？マジで？

先山 はい。

真野 え？なんで？

先山 やちよつと。

真野 あそう。わがった。

先山 すいません。

真野 :

先山 うまいこと言ったつもりはないんです。

真野、出て行く。

2人、仕事をしながら、

下尾 なんて茂弘部長は真野課長じゃなくて、小枘課長

補佐を連れてったんですかね？だって真野課長のが

立場は上じゃないですか？

先山 ……ではここで問題です。川松社長、茂弘部長、小枘

課長補佐の共通点はなんでしょうか？チチチチチ

チチ:

下尾 ああわかった。(挙手) はい。

先山 はい。下尾さん。

下尾 3人ともカワマツ本社からの出向組です。

先山 ピンポン。ピンポン。ピンポン。正解。

下尾 よしっ。

先山 そう。いつだって子会社の運命は親会社の意向で決

まります。さすが下尾選手、最終問題で逆転しまし
たね。

下尾 イエーイ。…てことはやっぱり受けんのかな？さっき
の話。

先山 だろうね。現場の声は聴いてもらえねー。

しばし間。

下尾 なんでタバコ止めたの？

先山 え？

下尾 あんなにヘビーだったのに。

先山 …さていよいよこれが本当の最終問題です。

下尾 ちよっと。さっき最終問題って言ってなかった？

先山 言ってねー。

下尾 えー。

先山 さていよいよこれが最終問題です。

下尾 ブーブー。

先山 下尾選手、準備はいいでしょうか？

下尾 …はいわかりました。

先山 なぜ僕は禁煙したんでしょうか？答えは3択です。

下尾 はいはい3択ね。

先山 1。身体に悪いと思った。

下尾 …

先山 2。お金がなくなった。

下尾 あ、はい。2。

先山 ブー、違います。

下尾 え？違うの？

先山 3。…下尾真弓さんが妊娠したから。

しばし間。

下尾 (勢いよく) 3！

先山 (勢いよく) 正解！

そこに真野がやってくる。

真野

えー…知らなかつたあ。2人がねそう
いう関係だったのね…あいやね、ライターをね、忘
れちゃいましたね。

転換。

【シーン3 イチバ】

昼の節電で少し暗いオフィス。

ランチ帰りの別府と張本が話をしながら入って
くる。

張本

(袖から) 父がF1の番組よく観てたのね。その影
響で私も好きになって、ずっとテレビ観てたの。そ
の後、観るだけじゃ物足りなくなって、高校の時に
レーシングカートやるようになったの。これがまた
めっちゃ楽しくて。それがきっかけでレーシングカ
ートにはまったの。

別府 F1繋がりだったんすね？

張本

そう。

別府

ホントすごいことはあったの。でもなかなか勝てなくて。そつれが悔しくて悔しくて、めっちゃ勝ちたいから、エンジンとかステアリングとかいじるようになって。キャプテンに教わりながらだけど自分で。

張本

高2だったかな？ たったそれだけで劇的に成績が上がるようになって。そこから車って手を入れるだけで全然別の車になるんだ、面白いなあって思うようになって。だから大学で機械工学を専攻したの。念願叶ってイチバ自動車に入社できたんだけど、まさかE.Vの部署に配属されるとはね。

別府

…走ってる間、すごいドーパミンが出るの。それが超エクスタシーなの。

木須

木須、野中が入ってくる。
打合せ資料を小脇に抱えながら。
超エクスタシーすか。

張本

！
そう。あんな快感、他では味わえないから。

別府

そんなにすか？
そんなに。

張本

いいっすねえ。なんか聞いているだけで興奮してきました。

別府

1回やってみて。絶対はまるから。
超エクスタシー？

張本

そう。だから絶対行って。行きます行きます。絶対。

別府

と言って、スマホを取り出し操作。

木須

張本さん。
はい？

張本

例のお願いしてた資料、今日中にならないかな？

木須

開発が遅れてることに關して経営から「なんとかならんのか」って言われたのよ。

野中

社長は「絶対成功させる覚悟や熱意が足りない」って言うってたよ。

別府

そう見えてんのは癪っすよね。
それでもう一度夕方に説明に行かなきゃいけなくなつたの。私たちは別に遊んでるわけじゃないってことをちゃんと。

野中

さすがに今日中は無理だよな？
資料ですか。はい。元々明後日って言われてたんで。

張本

でも今から頑張ればなんとかなるんじゃない？
…今日って何時までですか？

木須

6時。どう？

張本

ああそれは無理ですね。今日も4時半に娘迎えにいかなきゃいけなくて。昨日までにわかってれば、母親に来てもらったんですが、さすがに今からじゃ無理なんで。

しばし間。

木須 では野中次長がなんとかしてください。

NA 1時になりました。みなさん、効率的な働き方、チームでの助け合いを意識し、高い目標を実現しましょう。

野中 え？私ですか？

部屋が明るくなる。

木須 6時に説明に行くこと、あなたも了承したじゃないですか。

野中 いや私もこれから別の会議が入ってますから、さすがにちよっと。

木須 ちよっといい？

木須 社長の時間が取れるのがそこしかないこと、野中次長もわかってますよね？だったら私たちが合わせるしかないじゃない。

木須、自席へ。
野中、張本、作戦会議を始める。

しばし間。

別府 手伝いましょうか。

別府 ごちそうさまでした。
また行こうね。

野中 それは助かる。ありがとう。頼むよ。

別府 今度は社食じゃないとここでお願いします。
私の仕事、また手伝ってくれたらね。

張本 すいません。私もできる限りやるんで、いいっすよ。

張本 はい。

別府 それはダメ。…別府くんには別の仕事をお願いしたいの。それも超急ぎだから。資料は2人でなんとかしてください。

別府、木須の席へ。

木須 …野中次長に引き継いでもらえるなら…

別府 急ぎってなんすか？
経産省の検討会に付いてきてほしいの。

野中 …わかりました。

別府 え？それ、僕でいいんすか？
今後、規制緩和関係の情報は別府くんに集約したいんです。

木須 シーよ。

野中次長じゃなく？
彼には開発責任者として、現場ディレクションをメインでやってもらうことになってるから。

野中・張本 …
午後始業のBGMが鳴る。

別府 わかりました。何時に出ます？

木須 この後すぐ。出れる？

別府 わかりました。ただ調べものしたいんで、5分後でもいいですか？

木須 OK。あ、私、ランチがまだなんだけど、付き合ってくれない？経営会議が伸びちゃって。

別府 え？ランチ？会議は何時からなんすか？

木須 (スマホを操作して)霞が関で4時から。大体いつも2時間くらいかな？で、私、6時に戻んなきゃいけないから、5時には出たいの。だから後はお願い。え？ああ、わかりました。

別府 終わったら声掛けて。

木須 はい。あ、あと、僕、もうランチは食べたんで、僕はお茶でいいすか？

木須 もちろん。

別府、自席へ。

木須をじっと見ている野中。

木須 なに？

野中 何でもないです。

そこに立実が入ってくる。

鞆を自席に置いて。

野中 お帰り。どうだった？

立実 (首を振る)

野中 そうか。

立実、張本に紙袋を渡しながら、

うちの冷凍庫いっぱいだからさ。

いいの？

いいよ。

張本 ありがとう。主人がこれ大好きなんです。昔、出張のたびにもらってたから。

でも行くたびにもらってもな。

立実 すいません。本当なら交代で行かなきゃいけないのに。

野中 いいよ別に。気にすんな。

立実 そうそう。なんせ(大きい声で)チームでの助け合いを意識して高い目標を実現しなきゃいけないからな。

全員、野中に注目。

野中、張本と作戦会議を続ける。

立実、木須に近付き、

今、いいですか？

木須 うーん、もうそろそろ出なきゃいけないんだけど。現場が悲鳴を上げてます。コストを上げるか、納期

を伸ばすか、どちらかしないと、現場が持ちません。

もう諦めるの？まだ3カ月しか経ってないのに？

立実 カワマツさんもギブアップはしてません。毎日頑張ってます。

木須 頑張るのは当然よ。仕事なんだから。

木須 (別府に) お待たせ。あ、(立実) ゴールデンウィークに何日か出社したよね？

立実 はい。カワマツさんが来社されたんで。

木須 それはいいけど、絶対代休取って。労働基準法違反は犯罪だから。

立実

木須 (みんなに) 何度も言いますが、法令順守は社の強い意志なの。絶対に守ってくださいね。

張本 だから4時に帰らせていただきます。

木須 OK。じゃあ6時までによろしく。

野中 承知しました。

2人、そのまま外出する。

野中 お前の気持ちもわかるが、諦めるのは早いという部長の意見に俺も賛成だ。まだ3カ月しか経ってない。3カ月しか経ってないからこそ、立ち戻ってもいいんじゃないかと思っただんです。木須部長には通じませんでしたね。

張本 通じるわけじゃない。役員の言うことは絶対なんだから。：知ってます？初の女性役員候補なんだって。

立実 ええ？木須部長が役員？

張本 噂だけだね。

立実 マジで？

野中 その噂、初めて聞いたよ。

張本 女が集まると、そんな話になるんです。あくまで噂ですよ。

野中 よくわかるよ。経営会議の様子を見てればな。

木須、登場して1人で回想シーン。

木須 専務の仰ること、すごいよくわかります。その視点がなければ、アイレは売れないと思います。：はい、

社長？：資料ですか？明後日までにお持ちしようと思ってきましたが、遅いですか？：承知しました。すぐにお持ちします。：はい。では6時にまた伺います。：あ、常務。土曜のコンペの件なんです：

と言いながら、去って行く。

野中 減点されないよう必死だ。

立実 減点どころか、加点しようとしてるじゃないですか。

張本 女は、加点しないと上に行けないから。

立実

： あ、私はそんなつもりないから。

昔はあんな感じじゃなかったんだけどな。

野中 どんな感じだったんですか？

張本 エンジニアなんて男ばかりだろ。女ひとりで頑張ってたよ。

野中

へえ。

張本 新入社員で俺の下に来たけど、全然可愛くなかった。

野中 とにかく言うこと聞かなかった。

張本 想像できない。

野中　でもすぐ俺の同期と結婚してな。

張本　そう言えば、前の旦那さん、営業だって言ってましたね。

野中　そのまま寿退社すのかなーって思ってたらしなくて。でもいつの間にも別れて。で、いつの間にも俺の上司になつて。

張本　いつの間になつて。

野中　で、いつの間にも役員の言つたことを聞くようになって。まあそういうことだ。

張本　上を目指したくなつたんですかね？

野中　わからん。でもそういうことだろ。

張本　野中次長は目指さないんですか？

野中　ん？

張本　役員。

野中　え？

張本　だって悔しくないですか？部下に先を越されて。しかも女に。

しばし間。

野中　飯食つてくる。

と言って去る。

張本　立実さんも役員になりたいですか？

立実　：

張本　すみません。愚問でした。あ、冷凍庫に入れてきます。

と言って紙袋を持って去る。

立実　どう見えるんだろうな？上から見下ろす景色は。

転換。

【シーン4 カワマツ】

真野が珈琲持って入ってくる。

真野　そりやあもう絶景ですよ。来月の那須岳、ぜひ登ってください。頂上から見下ろす下界はね、360度、

真つ赤に燃えています。この世のものとは思えません。

まるで山火事です。

そんなに？

立実　立実主任、キャンプ好きですよ？

立実　毎月、グランピングして、ました。

真野　だったらキャンプ場いっぱいあるんで、来た方がいいですよ。最近、どこ行ったんですか？

立実　あ、いや、最近はどこにも。

立実　夏休み、やんなかったんですか？

真野　今年はどこにも行きませんでした。

立実　：私たちのせいですか？

真野　いやいや、そうじゃないです。息子が来年、受験な

んで。ちようどよかつたんです。

立実　すみませんね。

真野　いやいやホントに。

立実

エレベーター到着の音。

立実 皆さんだつて休み返上してやられてるじゃないですか。

か。

真野 私たちにも意地がありますから。

立実 そう言っていただけだと救われます。ありがとうございます。

さいます。

下尾が出社してくる。

お腹が大きい。

真野 我々は下請けです。立実主任が謝る必要はありません。

立実、頭を下げる。

真野 おはよう。

下尾 おはようございます。(立実に)だから言ったじゃないですか。ホテル取った方がいいですよって。

立実 結局、真野さんちにお世話になりました。

真野 連れて帰ったのよ。

下尾 絶対、帰れなくなりますよつったのに。

立実 はい。ホントにそうでした。

真野 立実主任、こう見えて、踊りながら歌うんだあ。

下尾 彼に聞きました。ランニングマン、ばっちり決めたつて。

真野 そう。もうホントすごかったの。ランニングマン。

立実

真野

と言いながら、ランニングマンをする真野。でも下手。和やかな3人。

下尾 私も行きたかったな。2次会。

真野 それは無理だよ。先山くんがあんだけ反対してたんだから。

昨日、先山さんにも言ったんだけど。

立実 はい。

下尾 もし、やっぱり式を挙げるってなったら、ぜひ呼んでください。

立実 ほら。だから挙げた方がいいって。

真野 じゃあもし挙げることになったらお呼びしますね。

下尾 はい。ぜひ。

立実 お母さんの気持ちもわかってね、いまどきは古いと思う。

真野 うちの会社もめっちゃ多いですよ。若い人はみんな授かり婚です。

立実 ほら。気にすることないんだって。

真野 私は気にしてませんよ。母が嫌だつうから仕方ないんです。ひとりで私を育ててくれた母に恥ずかしい思いはさせたくないんです。

下尾 2人がそう決めたんなら、それでいいんじゃないですか。

立実 一生に一度しかないのに？

真野 それもそうですけど。

立実 一生に一度じゃないかもしんないじゃないですか。

下尾

立実

真野

立実

下尾

立実

真野

下尾

立実・真野 え？

真野 そういうことなの？

下尾 あ、先のことには誰にもわかんないって意味ですよ。

二度目の結婚を考えてるわけじゃありません。一応、新婚2日目なんで。

先山、研究室から入ってくる。

もちろん実験着。結果の紙を持って。

真野 あー焦った。だよね。

下尾 ですよ。

先山 どうだった？

下尾 あ、うん。順調だった。

先山 それはよかった。(立実に紙を渡しながら)ダメでした。

立実 そうですか。(紙を見る) 電費9.7って昨日よりコンマ1落ちてるじゃないですか。

と言って紙を真野に渡す。

真野 こっちは順調じゃないかあ。

先山、実験着を脱ぎ始める。

先山 負極をカーボンに戻したっけ、電費が0.1落ちました。やっぱり素材は金属シリコンがベターだと思います。

真野 それだと寿命サイクルが短い。車には向かないって諦めたじゃないですか。

先山 劣化したのはシリコンの粒子径が大きすぎて微粉化したからです。さっき思ったんですけど、粒子径を小さくできれば、課題はクリアできんじゃないかと

思ったんです。もう一度トライすんのはどうでしょうか？

真野 また素材開発つからやり直すんですか？

先山 量産計画のことを考えたら、残された時間はもうない。カーボン素材のまま工夫した方が確実だ。…立

真野 実主任はどう思いますか？

立実 今までやってきた確実なカーボン素材で続けるべきか、リスクを背負って新しい素材、金属シリコンに変えるべきか、ということですね？

真野 はい、そうです。

立実 …確かに素材開発からやり直して結局ダメだったら目も当てられない。私も真野課長の意見に賛成です。先山くんの意見もわかっけど、ここは研究機関じゃない。開発機関だ。好きなだけ研究できんなら金属シリコンにトライする価値はあるかもしれないけど、

そうじゃない。我々はプロジェクトのミッション、スケジュールに合わせて開発するチームだ。あと1カ月そこで結果を出さなきゃなんないことをわかってほしい。

立実 ありがとうございます。

先山 …わかりました。カーボンで続けます。いいの？それで。

下尾

先山 仕方ねーべ。課長の言う通り、この状況で博打は打

てねー。失敗は許されねんだ。

下尾 カーボンで続けたら間違いない成功するの？

先山 それはやってみねーとわかんねー。

下尾 だったら金属シリコンでも同じじゃない。やってみ

ないとわからないんだから。

真野 下尾ちゃんの言うてっこともわかってけど、また素材

開発から始めたら2週間は掛かる。プロジェクトリ

ーダーとして、その選択はできない。

下尾 私は2人みたいに優秀じゃないんで、どっちがいい

かよくわかりません。カーボンで続けた方が、結果、

いいかもしれません。でも先のことには誰にもわかん

ないじゃないですか。開発者としてこの人（先山）

を私はとても尊敬してます。だから悔いのない選択

をしてほしいだけなんです。

先山 俺だって悔いのねー選択してえよ。でもどっちがそ

うなんだか俺にだってわかんねー。だったら博打は

打てねー。それはわかってくれよ。

下尾 どっちかわかんなかったら、どっちも博打じゃない。

それはそうだけって。

先山 それに、ホントにわかんないの？

何が？

下尾 どっちの方が可能性があんのか。

先山 わかんねーよ。わかるはずねー。

下尾 じゃあなんでさっき「仕方ねーべ」だったの？

え？

下尾 仕方ねーべ。課長の言う通り、この状況で博打は打

てねー、って。

先山

： ホントはわかってんじゃないの？金属シリコンにし

た方が可能性あるって。

下尾

しばし問。

先山

可能性はシリコンの方があると思います。カーボン

真野

は半年間、散々やりました。だから確実に電費を上げてきた。

先山

でもこの3カ月は上がってなかった。金属シリコンに変えたら上がったって喜んでたじゃ

下尾

ないですか。体積変化が大きすぎた。あれじゃ車載電池には向か

先山

ない。劣化が激しすぎる。ですから粒子径を小さくする組成ができれば、その

真野

問題は解決すっと思っんです。解決しないかもしんない。

先山

カーボンでの実験はもうやり尽くしました。ホントに？やり尽くした？やり残したことはゼロ？

真野

それはさすがにわかりません。やり残したことは必ずある。時間がない以上、今ま

先山

で続けてきたことに乗るべきだと思う。今、引き返

下尾

す時間はねーべ。： あなたがそう思うんなら従えばいい。でも納得でき

ないならとことん話し合うべきだと思う。悔いを残

さないように。ね？

しばし間。

先山 納得できません。負極の素材は金属シリコンに変えるべきだと思います。

真野 なんでわかってくんねんだべ？このプロジェクトは失敗が許されねー。今までの延長で取り組んだ方が確実だべー。

先山 いやしかし課長、わかりました。じゃあこうしましょう。お互い主張する方法のプロコンをそれぞれまとめてください。明日またこっちに来るんで、それ見て、みんなで議論しませんか？素材開発から立ち戻るべきか、今の素材で進めるべきか？どうですか？

真野 明日また？平気なんですか？

立実 今が一番大事な時。私も参加します。

下尾 立実主任、電池の開発だけやってるわけじゃないでしょ？そんな時間あんですか？

立実 もちろん開発はエンジン回りすべてなんですけど、電池はアイレの心臓部です。心臓が動かなければアイレは動きません。何より優先してやりたいんです。立実主任がそう言うんなら私は構いません。

先山 もちろん私も。

立実 ありがとうございます。じゃあまた明日来ます。わかりました。明日までにプロコンまとめんのと、ランニングマン、練習しておきます。

立実 楽しみにしています。

先山 駅まで送ります。

立実 ああ、ありがとうございます。

先山、実験着を持って行こうとする。

真野 あ、それ置いといて。自分が使うから。

先山 え、あ、はい。

下尾 そうだ。もうないかも。

先山 何が？

立実 いやいやいやいや。大丈夫です。さすがにもう冷凍庫に入りません。

下尾 さすがもうわかってますね。

立実 ホントにお気遣いなく。

下尾 遠慮しなくていいですよ。売るほどあるんですから。

立実 いや、ま、そうでしょうけど。

下尾 私も行くんで、店に寄ってくれる？

先山 わかった。

立実 いやいやホントに。ホントにもう大丈夫ですから。

下尾 だったら部の皆さんに分けてください。

立実 言われなくても分けてます。

下尾 だったら他の部の皆さんにも分けてください。

立実 え？

下尾 宣伝、よろしくお願いします。

立実 …わかりました。(真野に) それじゃ失礼します。

真野 はい。また明日お待ちしております。

3人、出て行く。

真野、実験着を着て、実験室に行く。

そこに茂弘、小柙がやってくる。

茂弘 さっきの人事の話、渡りに船ですね。

小枘 自分もそう思いました。真野課長は間違いなく、こちらの要求に応じてくれます。

茂弘 頼みましたよ。

小枘 お任せください。…呼んできます。

茂弘 (頷く)

小枘、出て行く。

しばらくして戻ってくる。

小枘 喫煙所にはいませんでした。

と言ってそのまま実験室へ。

しばらくして小枘、真野が戻ってくる。

真野 なんですか、話って。

茂弘 今朝の結果、教えてもらえますか？

真野 はい。

と言って結果紙を渡そうとして、

小枘、奪い取る。

小枘、それを見て茂弘に。

茂弘 なかなかうまくいきませんね。

小枘 しかも昨日より0.1落ちてるよね？

真野 はい。負極の素材をカーボンに戻しましたから。

茂弘 これからどうするつもりですか？…何か手はあるんですか？

真野 まだはつきりと決まってません。先山さんと今後の方針で対立しました。それでお互いが主張する方法

のメリットデメリットを洗い出して明日議論することになりました。

明日？

茂弘 はい。お互い、納得すぐで次に進もうと。

茂弘 納得は大事です。

真野 そこに立実主任がまた出張して立ち会ってくださいるそうです。

茂弘 いや、しかしですね。

真野 はい。

小枘 遅いよね。

真野 はい？

小枘 どうもみんなと会話が噛み合わないのはそういうことなんじゃないかって、最近思うんだよね。

真野 どういうことですか？

小枘 のんびりすぎるっていうか。

真野 はあ。

小枘 そんな悠長な状況じゃないことは真野さんが一番わかっているでしょ。

真野 そりゃあわかってますよ。ですからどの方法が一番

ベストか、明日、みんなで議論しようってなったんです。

小枘 さっき社長から叱責された。

真野 …結果が出ないからですか？

小枘 それ以外ないよね。

茂弘 遅いってことですよ。

真野

小枘

真野

別に遊んでるわけじゃない。一生懸命やっています。

小枘さんもわかってますよね？

わかっているよ。わかっているけど、社長は結果がすべてだから。

そんな簡単に結果が出んなら誰だって苦労しない。

仕方ないじゃないですか。元々無理難題を承諾したのは社長です。だったらあんたがやってみろって。

そう言い返してくださいよ。茂弘部長。小枘課長補佐。

茂弘部長。小枘課長補佐。

小枘

真野

茂弘

真野

小枘

はい。

腹痛ですか？

ええまあ。

薬、買ってきますね。

薬、買ってきますね。

薬、買ってきますね。

薬、買ってきますね。

ああいや、買わなくていい。

自分でですか？

…自分で行くから。

いいですよ。薬局すぐそこなんで。トイレ入ってる間、戻って来れますから。

いいから。真野課長は話を続けといてください。

…わかりました。

茂弘、「あいたたた」とか言いながらお腹を押さえ出て行く。

真野 親父が店を広げすぎて潰れたんですけどね。もうないですよ。

小枘 それも聞きました。

真野 はあ、そうなんですな。

小枘 上に立つ人間はそれでいいと思います。ひとつのミスがチームを崩壊させることになる。

真野 さっきから何を言ってるんですか？

小枘

真野 小枘さんが私に敬語使ってるの、初めて聞きました。

しばし間。

小枘 真野さんにとっていい話です。

真野 だから何ですか？早く言ってください。

小枘 カワマツ本社で開発をやっていたのはどうかと社長が言っていました。

真野 社長が？どういうことですか？

小枘 ですから言葉通りです。世界のカワマツで開発をやっていたみたいです。

真野 まったく話が見えませんか。

小枘 ですからそのままですって。カワマツ本社が真野さんを引き抜きたいってことです。子会社から親会社

真野 に。

小枘 …プロジェクトをもうやるなっつーことですか？

真野 これはあくまで僕の独り言です。…電費の数字が違ってても誰も疑わないですよ。この9.7が10.0

小枘 になっても。

しばし間。

真野 改ざんしろっつーことですか？

小枘 そんなこと僕言いました？

真野

小枘 あくまで僕はここ（研究室）で出た数字は誰も疑わないよなあって呟いただけです。だって誰も見てないんだから。

真野 それってだから数字を改ざんしろって言ってんじゃないですか。

小枘

真野 だから僕は何も言ってない。数字さえクリアすればみんなハッピーになるのについていう事実を言っただけ。社長も。イチバ自動車さんも。そして真野

小枘 さんも。

真野 …なんでそんなことを私に？

小枘 プロジェクトのリーダーだからです。

真野 そんなこと私にはできない。

小枘 誰もこの数字を疑わないのには？

真野 真野さんは社長が期待する数字を出してくれると信じてます。慎重に慎重を重ねるリーダーだからこそ

小枘 期待してるんです。

真野 数字の改ざんに慎重もありませんよ。そんな無責任なこと、できるわけじゃないですか。

小枘 僕も無責任はよくないと思ってます。でもこの会社の責任についても言いたい。社と社の間で交わした

真野 契約という責任です。…まさか真野さん、自分さえ

小枘 よければ会社はどうなってもいいという無責任な人

真野 じゃないですよね？…会社は約束しました。航続距離500キロを出すリオン電池の開発を、だからそれはそもそも無理な注文であって、それを今、言われても、

小枘 それあのとき言いました？真野さんだけじゃない。

先山くんは？まゆみんは？それ、声に出して社長に言いました？…確かに最終的には社長が判断しました。でもそれは僕や茂弘部長を含め、この部のみんなが無理だと言わなかったからです。

真野

小枘 だとしたら会社の責任を果たすため、僕たちには何ができるかということになりませんか？

真野

小枘 会社が期待する数字を出すことです。来週までに。

真野

来週？え？来週なんて聞いてない。量産計画まで1カ月あるはずだ。

小枘

1カ月じゃ遅いんです。1週間でお願ひしたい。

真野

なんでですか？そんないきなり言われても困ります。それは僕もわかってます。でも来週までに結果出したら、みんなが幸せになれるんです。

真野

無茶苦茶だ。

小枘

でもそれが会社というものだ。

真野

…何があるんですか？来週。

小枘

イチバの町田社長と川松社長のトップ会談が急遽設定されました。

真野

…だからそこに間に合わせるっつーことですか？社長同士の会談にお土産が必要なことはわかりますよね？交渉を有利に進めるためです。

真野 電池の開発成功がお土産ですか？
小枘 電池の開発成功が実際と少し違っていても誰がそれに気が付くと思います？理論値と実測値が違うのは当たり前のことだし、安全が損なわれるわけでもない。つまり不幸になる人は誰もいないってことです。僕は真野さんに、お父さんのようになってほしくないんです。

真野

しばし間。

小枘

ちょっと（タバコ）一息入れましょう。

真野

と言って歩き始め、

真野

茂弘部長入れて話をしましょう。

真野

と言って去る。

小枘

深々と頭を下げる。

真野

転換。

真野

5人とも机に着席している。

小枘

立実の足元にはポストンバッグ。

【シーン5 イチバ】

真野

5人とも机に着席している。

小枘

立実の足元にはポストンバッグ。

真野

木須 回して。

…と言って資料を配布する。

木須 それじゃ部会を始めます。

立実 (木須に) すいません。11時の新幹線に乗りたいで、10分後に抜けさせてください。

野中 わかった。何かあればメール入れとく。

別府 議事録は書いておきますんで。

立実 ありがとう。

木須 出張？

立実 はい。宇都宮です。

張本 今度はお土産、別なものにしてくださいね。

立実 (苦笑) そうだな。

木須 何しに行くんですか？

立実 カワマツエナジーさんと打ち合わせです。(野中を見る)

木須 聞いてないんだけど。

野中 そうだ。すいません。昨日、立実から報告受けてお伝えしたかったんですが、いらっしやらなかったんです。朝一報告すべきところ失念してました。私の責任です。申し訳ありません。

木須 …じゃあ今、報告してください。

立実 はい。

時間経過のSE。

立実 それでもう一度、行くことにしました。

木須 …それ、わざわざ立実主任が行く必要あるの？

立実 ……どういう意味ですか？

木須 現場は現場に任せればいいんじゃない？立実主任はあくまでプロジェクトの管理者なんだから。

立実 プロジェクトをマネジメントする立場だからこそ、重要な会議には参加すべきじゃないんですか？

木須 負極の素材をカーボンにするか、金属シリコンにするかが、そんなに重要？

立実 何言ってるんですか？重要ですよ。開発の成否を握ってるんです。今日の会議が目標を、クリアするかどうかの分岐点なんです。

木須 私、前にも言ったと思うんだけど、下請けを信じて待つのも元請けの役割だと思うのね。

立実 ……宇都宮に行くってことですか？

木須 現場の会議になんで管理者のあなたが参加するのか、私には理解できません。

立実 プロジェクトを成功させたいからです。

木須 立実主任がその会議に参加すると、必ず成功するの？

立実 必ずなんて言えませんよ。でもそういうつもりでプロジェクトをマネジメントしています。

木須 私たちの担当は電池だけじゃないのよ。動力関係全部。そっちはどうするの？

立実 ……

木須 まさか土日に行きますとか言わないでね。

立実 それはないです。

木須 ならいいんだけど、とにかく時間は有限なの。もつと効率的な働き方を心掛けてください。もちろんみんなも。

それぞれ、思い思いに「はい」とか頷いたり。

木須 「働き方改革」の意味、わかってる？

立実 重要な会議にも参加できないことが、「働き方改革」なんですか？

木須 そうは言わないけど、だったらテレビ会議でいいじゃない。わざわざ宇都宮まで行く必要があるの？

立実 面と向かった会議じゃないと理解できないこともあります。

木須 面と向かった会議じゃないと理解できないこと？って何？

立実 …… 表情とか、声の感じとか。そういうことじゃないですか。

張本 表情も、声の感じも、うちのシステムはかなりのクオリティではっきりわかります。実際の会議と何ら変わらないと思います。

別府 え？なに？別府くん、そっち派？

張本 そっち派もこっち派もない。僕は事実を言ってるだけです。表情や声の感じが重要だったらテレビ会議でも充分です。

野中 画角じゃないか。

野中 ……

野中 ……

野中 ……

立実

実際ここに座っていると、自分の視点でメンバーを見ることが出来るから、細かい情報も拾えるってことじゃないか。

木須 わかります。話してる人だけじゃなく、まわりの表情や声も同時に入ってくるからより細かく追えるってことですよ。

野中 実際に会議に参加する方が細かくわかるの当然じゃない。私が言いたいのは、そんな細かい情報必要？ってこと。大事なことは会話の内容でしょ。

野中 目の前で見たり聞いたりする内容はテレビ画面を通して見たり聞いたりする内容とは違います。

木須 何が違うの？テレビ会議と実際の会議で。

野中 …… 何が違います。

別府 だからそれを聞いているの。

野中 会議の議事録をテキスト化したら、きつと同じだと思うんです。文章としては。何が違うんですかね？

立実 何が違うの？

野中 …… (腕時計を見て) テレビ会議では理解できないことを現場で感じたいんです。感じて判断したいんです。金属シリコンにすべきか、カーボンにすべきか。この部にとって重要な会議です。行かせてください。

木須 ……

立実 ……

木須 ……

しばし間。

木須 言うべきかどうか迷ったんだけど…

別府 それは言わなくていいんじゃないですか。

木須 あなたは黙ってて。

別府

立実 …

木須 遊びに行きたいだけじゃない？宇都宮。

立実 違います。打ち合わせです。

木須 ツイッターに楽しそうな写真が上がってたんだけど。

立実 ツイッター？

木須 随分、楽しそうだった。

立実 なんのことですか？

木須 一昨日の夜の写真。

立実 一昨日？

張本 あ！それ、私、リツイートしたかも。

立実 なんだっけ？

野中 なに？どんな写真？

張本、野中にスマホを渡す。

と、突然、爆音で R・Y・U・S・E・I が流れる。

真野、先山が突然やってくる。

そこに立実が加わり、ランニングマンを始める
ところで先山が自撮り。

野中 確かに楽しそうだ。

立実

木須部長。会議の後です。先山さんと下尾さんが籍を入れたんです。そのお祝いで飲みに行ったんです。取引先と友達になることもダメなことですか？働き方改革っていうのは。

木須 そんなことは言ってます。友達？どうぞご自由に。飲み代も自腹です。会社の経費で落としてません。

立実 何が問題なんでしょうか？

木須 部の申請フォルダ、開ける？

張本 はい。

と言ってPCを操作。

木須 立実主任の出張申請。それ、それ開いてくれる？…

日帰り出張から1泊2日に変更した理由のどこ、読み上げてください。

張本 カワマツエナジーとの会議が深夜にまで及び交通機関がなくなったため。

しばし間。

木須 虚偽申告です。

立実 … 本来なら日帰り出張であるところ、飲み歩いて1泊2日に変更、翌日午前中の時間を無駄にしただけじゃない、申請書に虚偽の内容を記載してます。

立実 … これでもまだ、宇都宮に行きたいと言えますか？

立実

木須 この件は大目に見ますが、立実主任はしばらく出張禁止にします。

立実

木須 (野中に) いい？

野中 すいません。監督不行き届きでした。

木須 部会は10分後に再開します。

木須、出て行く。

野中 運が悪かったと思って諦める。

立実 仕事で行くのに、運ってなんですか？

野中 脇が甘いんだ。仕方ないだろ。

立実 (頭を抱えて) あー失敗したー

野中 部長と繋がんの止める。色々面倒くさい。

張本 私ですか？

野中 リツイートしなきゃバレなかった。ブロックだよ

張本 ロック。

張本 いえ、私、木須部長とは繋がってません。

野中 え？そうなの？

張本 はい。会社で繋がってるのは立実さんと…

と言って別府を見る。

別府 確かに張本さんとは繋がってますが、僕も木須部長

野中 とは繋がってません。

野中 じゃあなんで木須部長は写真を見たんだ？…言っと

張本 くが俺はSNS一切やってないからな。

張本 ホントですか？

野中 ああ。ツイッターもフェイスブックもインスタも、一切やってない。

張本 すごいやってそんな感じするのに。

野中

別府 友達の友達の友達、みたいなことじゃないですか？

野中 はりじゅんもSNSに上げる情報には気を付けろよ。

立実 (突然) 野中次長。

野中 びっくりした。なんだよ？

立実 午後、半休にします。

野中 は？

立実 自腹で宇都宮に行きます。だったら問題ないですよ

野中 ね？

野中 ないわけないだろ。働いてるのに休みにするのはサ

ービス残業になる。絶対にやっちゃいかん。

立実 休みに何しようが自分の勝手じゃないですか。会社

に指図されたくありません。

野中 お前がそう思っても、労基署はそう思わない。バレ

たらアウトだ。

立実 でも絶対にバレないですよね？(IDを掲げて)記

録が残らないんだから。

野中 ……そうだけど奴らを甘く見ないほうがいい。取引先

の入場記録まで調べるらしいからな。

立実 野中次長も若い頃は現場主義だったって言ってたじ

やないですか。

野中 それも確かにそうなんだけどな。

立実 私も現場を大事にしたいんです。

野中

野中

野中

野中

野中

立実

午後半休にしてたまたま宇都宮に行くだけです。いいですよ。来館記録も残らないよう気を付けます。聞くな。聞いたらダメというに決まってるだろ。

野中

わかりました。聞きません。

立実

でも僕、聞いちゃいました。…木須部長にバレたら超大問題ですよ。まずくないですか。

別府

部長には何も言うな。テレビ会議はお前が出たことにして報告すればいい。

立実

いや、しかし、それは…

別府

いやなのかな？

張本

別府くん、部長派だよな？

立実

え？いやちよつと待ってください。部長はみんなの部長で、そういう意味ではみんな部長派じゃないですか。ですよ？

張本

いや、私、違うけど。

立実

ちよつともう時間ないんで、行きますね。すいませ

別府

ん。午後半休取ります。(別府に) ホント頼むな。え————。

張本

立実、書類やらをポストンバッグに詰め始める。そこにデスクの電話が鳴る。

立実

(電話) はい。イチバ自動車、パワーユニット開発部でございます。…ああ真野課長、お世話になってます。張本です。…はい元気です。…ちよつと1歳半になりました。…そうですね。はい。…はい、ありがとうございます。頑張ります。…はい、少々お

待ちください。(電話口を押さえ、立実に) カワマツ エナジীর真野さんです。

と言って電話を渡す。

真野、携帯で話しながら登場する。

立実

(電話) はい、変わりました。立実です。

真野

(電話) 真野です。よかった。まだいらして。

立実

(電話) まさに今から出るところでした。さっきお話しした通り、11時49分に宇都宮に着く新幹線で向かいますから。

真野

(電話) それなんですけどね。

立実

(電話) はい。

真野

(電話) 今日はもう来なくてだいじになりました。

立実

(電話) え？どういことですか？

真野

(電話) 負極の素材、カーボンに決めました。

立実

(電話) え？プロコンの議論、昼からみんなでする予定でしたよね？

真野

(電話) それを今、課のみんなで話して、カーボンにすつと決めたんです。

立実

(電話) もう結論出したってことですか？

真野

(電話) そうです。

立実

(電話) 私を待たず？

(電話) すいませんね。

(電話) いやま、それはいいんですけど、でもそんなに早く決まるもんですか？(腕時計を見て) 午後の予定決めたの1時間前ですよ。そのときはそんなこと言っただけなのに。

先山が入ってくる。
別府が出て行く。

真野 (電話) あれからすぐ話がまとまりました、先山も

カーボンのメリットに納得してくれました。

立実 (電話) シリコンに相当こだわってたの？。

真野 (電話) 昨日はそうでしたがね、やはりデメリットの方が大きいと理解してくれました。

下尾が入ってくる。

張本が出て行く。

立実 (電話) 下尾さんは？先山さんに「納得できないことはするな」って相当強く言ってたじゃないですか。

真野 (電話) 下尾も最終的には、はい。

立実 (電話) …

茂弘が入ってくる。

野中が出て行く。

立実 (電話) 茂弘部長と小柘さんも？

真野 (電話) もちろん納得しました。全員の総意で決まったんで、こうしてお電話してるんです。

小柘、入ってくる。

立実 (電話) そういうことであれば。そうですか。わかりました。

真野 (電話) 数字の報告はまた随時入れますから。お待ちください。

立実 (電話) しつこいようですが、今日はそちらに行かなくていいってことですよ？

真野 (電話) そうです。

立実 (電話) …

真野 (電話) ランニングマンはまた今度お見せしますね。

立実 (電話) 真野さん。

真野 (電話) はい。

立実 (電話) 素材決まって嬉しいはずなのに、元気ない気がするんですが、

真野 (電話) 気のせいですよ。

転換。

【シーン6 カワマツ】

立実 (電話) この後、ちょっと仕事を片付けて11時49分、宇都宮着の新幹線で行きます。

真野 (電話) わかりました。その頃にお迎え行きます。

立実 (電話) ありがとうございます。では後ほど。よろしく願います。

真野 (電話) はい。お待ちしています。(切る)

立実、出て行く。

真野 イチバの立実主任でした。

下尾 立実さん来んなら、立実さん入れて話し合いませんか？

真野 何を？

下尾 今の話ですよ。

真野 話せるわけじゃないでしょ。数字を改ざんしてもいいですかって。

茂弘 今日はもう宇都宮に来る必要はありません。結論は出ましたって伝えた方がいいんじゃないですか。

真野 (腕時計を見て) もう少ししたら電話します。

下尾 立実さんに、お土産は必要なのかお聞きしたいんです。

全員 :

下尾 あ、餃子じゃなくて。

全員 (頷く)
開発成功のお土産が必要ないって言われたら、1週間の期限、なくなんじゃないですか。

小枘 俺は社長から直々に言われたの。

下尾 数字を改ざんしろって？

茂弘 それはありません。この話は真野さんからの提案です。社長は指示してません。間違ってもそんなことを口外しないように。

下尾 でも茂弘部長も承認したわけですよ？つまりは忖度じゃないですか。みなさんの。

先山 僕は納得できません。結果出すために今まで一生懸命やってきました。改ざんすることは、それを全部なかったことにするってことです。

真野 今までやってきたおかげで、あともう少しということまで来た。その、あともう少しの部分だけ、下駄を履こうってだけだ。それで、自分は納得できた。

下尾 今までやってきたことは決して無駄じゃない。理解してほしい。

下尾 下駄を履くのにも高いも低いもないです。嘘は嘘。全部なかったことになんじやないですか。

先山 僕もそう思います。

茂弘 世の中には2種類の嘘があります。いい嘘と悪い嘘です。真野課長の提案はいい嘘だと思います。

下尾 なんですか？

茂弘 納期までにリオン電池を納めることができます。だからイチバ自動車さんも予定通りアイレを来年発売

することができま。誰も不幸にならない。この課は社長から感謝され、褒賞がもらえるんじゃないでしょうか。

先山 褒賞？

下尾 私たちがよくてもお客様を騙すってことですよ。数字の改ざんは。嘘にいいも悪いありません。

真野 それはさっきから言ってるように「バレる可能性」はゼロに近いのにそうだろうかってことなのよ。

下尾 それってバレなければ浮気じゃないっていう茂弘部長と一緒に言ってますよ。

茂弘 (咳払い)

下尾 あるものをないって私にはできません。それに、近いうってだけで、ゼロじゃないんですよ？バレる可能性。

真野

いやもうゼロだと思っ。絶対バレない。カタログの数値を疑う人がどれだけいると思っ？

小柝

いないと思っ。ってか、そもそもカタログ見る？クルマ買うとき。

先山

見ますよ。じっくり隅から隅まで。

真野

それは先山くんがこういう仕事してるからでしょ。普通は写真だけ見て「格好いいなあ」とか「使えるなあ」で終わりよ。数値までは見ない。

先山

でも航続距離は見るんじゃないですか？1回の充電でどんくらい距離走るかは気になんじやないですか。

下尾

うん。気になる。だってEVでしょ。

真野

だからそれが500キロよ。アイレの航続距離は500。そうでしょ？

小柝

あくまで理論値ね。実際500までいかないことはみんなわかってるから。だからそこまで厳密になんなくてもいいの。

しばし間。

先山

なんですか？褒賞って。

茂弘

期待を込めて言っただけなんで、確約されたわけじゃないですが、普通は金一封です。あるいは人事的な何か。つまりそれだけ価値ある開発を成し遂げたってことです。

下尾

成し遂げてないのに？

真野

成し遂げたのよ。我々が達成したって言えば、達成したことになんの。

先山

真野課長はなんで数値を改ざんしようと思ったんですか？社長に取り入りたいんですか？

真野

そんな個人的なことじゃない。会社の責任を第一に考えたら、それしかないっつー結論に至っただけ。

先山

会社の責任？

真野

：仮に来週、社長会談がなくても、1カ月以内に結果を出さなきゃいけないよね？

先山

そのために今まで必死にやってきました。

真野

結果、出なかつたらどうする？

先山

だから結果出すために今まで必死に、

真野

そういうプロセスの話じゃなくて、結果、期待の数字が出なかつたらどうするって話。その可能性、かなりあるでしょ。

先山

：先山くんも、なんとなく思っってたんじゃないかい？口にしないだけで。見たくない結果を考えない

真野

ように、希望だけを口にして。

先山

諦めたら終わりじゃないですか。

真野

それでもダメだつたら？

先山

：改ざんすっこと考えなかつた？

真野

考えたの？

下尾

：そうなの？

先山

来週の社長会談で改ざんした数字を提出しても、残りの3週間、頑張っって数字を出せばそれでいいわけ。

下尾

ただ、出せなければ、結果的に改ざんになってしま

真野

う。

下尾 改ざんせずに、できませんでしたって謝っちゃダメなの？

茂弘 社が大きな損失を被ります。それはありえませんが、カワマツエナジーが納期までにリオン電池を納めることができなければ、イチバ自動車さんはアイレを来年販売することができないわけです。販売することができなければ、イチバさんだけでなく、すべての下請け会社の売り上げが立たない。その損失分を補償しろとうちに言うてるかもしれない。契約を守れなかったうちに責任を取れと。そういうことです。

下尾 そんなに契約って絶対なんですか？

茂弘 絶対です。契約とはそういうもの。そして契約を守っていくことが、会社の信用を作ることになるんです。

下尾 イチバさんから信用されても、お客さんから信用されなくなります。

真野 だからその可能性は限りなくゼロだと言ってる。

しばし間。

先山 いずれにしたって素材を一から作り直すことはしないわけですね。(書類を出しながら) せっかくパソコンまとめてきたのに。

真野 今、与えられた諸条件を考えたら、カーボンしかないと思う。

先山 そして数字を改ざんしろと。

小栞 社長が契約するとき反対の声を上げなかったじゃない。だったらこの部署の責任だと俺は思う。

先山 声上げてたら違ってたんですか？

小栞 それはわからない。でも同じじゃないかな？そういうもんでしょ。会社って。

しばし間。

下尾 茂弘部長。

茂弘 なんですか？

下尾 私、辞めますね。

全員 え？

下尾 ホントは産休取ろうって思ってたんですけど、戻ってきてもやっていけない自信無くなりました。開発者が開発を諦める会社で働きたくないんです。

先山 ちよっと待った。早まんのは止めよう。今、そう思っている、あとから考えたら、ああなんである時間、あんなこと言っちゃったんだらうなああってことあなべ？そのパターンになる気がする。

下尾 ならんないよ。

先山 なんべ。今、感情的になっただけ。冷静になっただら後悔するって。

下尾 しない。私、今、すごくスッキリしてる。

先山 俺は今、すごくドンヨリしてる。

下尾 そうなの？

先山 じゃあ俺はどうすんだよ。俺も辞めなきゃいけないんけ？

下尾

あなたはあなたで納得できる道を行けばいいんじゃない。例えば会社に従う道を選んだとしても、あなたがそれを自分で納得すんなら、私は認める。ちょっと寂しいけど。

先山

納得って、なんで俺が会社に従うのはよくて、君はダメなんだよ。いいべ？ だったら。

下尾

だって生活しなきゃいけないじゃない。

先山

いやま、そりやそうだけって、それに私は、子どもに胸を張れる母親でいたい。

下尾

自分の信じることを曲げない強い母親。上に忖度するような子どもになってほしくないの。…なのでこのまま人事に寄って帰ります。今までお世話になりました。この会社で働けて楽しかったです。昨日までは。…開発頑張ってください。アイレは買わないけど。…あ、社長同士の会談が成功したら、打ち上げは、ぜひ下尾餃子でお願いします。お土産用意して待ってますから。

と言ってお辞儀。

颯爽と退場。

呆気にとらられている4人。

真野

…(茂弘、小柁に) すいません。ちょっと(先山と) 2人で話させてください。

茂弘

何を話すんだ？

真野

会社に悪いことはしません。だから、お願いします。と言って深々と頭を下げる。

茂弘、小柁、目を見合わせ、頷く。

茂弘、小柁、去ろうとした時、

真野

小柁課長補佐。…例のありがたい話、お断りします。

小柁

え？ なんで？

茂弘

その代わり、茂弘部長から川松社長にお願いしていただきたいことがあります。

真野

なんですか？

茂弘部長にとつて悪くない話です。

真野

わかりました。後ほど伺いましょう。

先山

茂弘、小柁、去る。

真野

珈琲飲むかい？

先山

あ、いや、結構です。

真野

あ、そう。…それにしても大した母ちゃんだね。尻に敷かれてるよね？

先山

座布団通り越して、フロアマットです。

真野

尻じゃなくて足！

先山

大変だ。先山くんも。でも悪くないです。なんですか？ 例のありがたい話って。

真野

…カワマツ本社で働かないかって言われたのよ。

先山

え？ 本社に？

真野

そう。家電の開発やらないかって。えー…、それすごいじゃないですか。子会社から親会社に引き抜きて話、聞いたことないですよ。

真野

でしょ。えっへん。

先山

でも断ってましたね？

真野

どうにも身の文じゃない気がしてね。

先山

なんで？そんなことないと思いますけどね。

真野

そんなことある気がすんのよ。

先山

家電の開発やりたかったんですよね？夢って言うって

真野

たじゃないですか。

先山

そんなこと言った？

真野

言ってましたよ。

真野

大学受験する時は確かにそうだったけどね、うち電

器屋だったでしょ。親父が調子に乗って店舗拡大し

たのよ。大学生のとき。宇都宮から郡山、福島の方

に5店舗くらいだったかな。結局、それがうまくい

かなくって、借金返済に困って、とうとう（首をく

くった）：

先山

すいません。親父さんの話、知んなかったです。

真野

誰にも言ってなかったからね。

先山

トラウマになんのもわかんですけど、もったいない

真野

と思いますよ。

先山

いや、だから身の文を考えようって心に刻んでんの

真野

よ。親父もメーカーと無理な販売契約結んで、それ

先山

を捌けずに立ちいかなくなったの。メーカーにその

真野

ノルマは無理だって言えればよかったのね。

先山

無理な契約：

真野

もしくは何か誤魔化せばよかったのよ。命より大事

先山

な契約なんてないはずだから。

真野

：

先山

先山くん。

先山

はい。

真野

急で申し訳ないけど、明後日には異動してもらおうか

先山

ら。

真野

え？うちの課に君はいらないから。

先山

なんでですか？

真野

ここでは君の力を発揮できないと思う。

先山

改ざんに関わらせないためですか？

真野

真野、先山の資料を見る。

先山

全部、自分で背負うつもりですか？

真野

何言ってるんよ？

先山

それは僕の台詞です。

真野

だから異動の通達だ。明後日からここに来ないよう

先山

に。

真野

嫌です。僕はここでアイレのリオン電池を開発した

先山

い。開発はあともう少しじゃない。だからこっからは自

真野

分ひとりでもひとりじゃできない。

先山

いくらなんでもひとりじゃできない。

真野

ここに来たいなら来てもいいけどよ、他の部署の人

先山

が（研究室）そこに入れないこと、知ってるよね？

真野

僕は入社以来、自動車バッテリーひと筋です。今さ

先山

ら他の開発はできません。

真野

できるよ。（資料）この、納得するまで諦めない気持

先山

ちさえあれば。

真野

見捨てるんですか？

先山

見捨てるんですか？

真野

見捨てるんですか？

先山

見捨てるんですか？

真野

見捨てるんですか？

真野 逆だよ。先山くんが先に進むんだ。先山だけに。(笑)

先山 …改ざんすつからですね？

真野 誤解してるようだけど、改ざんはしない。私は私の信じる開発で、結果を出すつもりだ。

先山 それは無理だって、自分でも言ってたじゃないですか。しかもひとりでとか。全部、背負うつもりなんですよ？

真野 別に諦めてねーよ。1週間以内に結果を出して、手柄を独り占めする。それには先山くんが邪魔なだけ。独り占めしようとするのは手柄じゃない。罪ですよ。お願いです。止めてください。

真野 異動は会社の命令だ。会社員である以上、逆らうことはできない。特例だけど、明日の経営会議に掛けてもらうことになった。通れば、明後日には異動だ。どこなんですか？異動先は。

先山 モバイルバッテリー事業部だ。ぜひそこでシリコン素材の開発にトライしてほしい。

真野 決定ですか？

先山 今朝、社長から言われた。決定だ。社長と話をします。

先山、出て行くこととする。

真野 早まるのは止めた方がいい。後悔するパターンだ。感情的になんな。冷静になれ。生まれてくる子どものために。

先山、出て行く。

それを追いかける真野。

【シーン7 記者会見】

充電池の異音がする。
同時にフラッシュが焚かれ、5人の記者たちが一斉に入ってくる。

記者1 町田社長ご自身、アイレの航続距離に不正があったと認めるんですね？

記者2 電気自動車における燃費を電費というそうですが、本来の電費とどのくらいの乖離があったんでしょうか？

記者3 木須部長にお聞きしたいんですが、不正は意図的だったんですか？

記者4 イチバ自動車はアイレを何台生産したんでしょうか？

記者5 ゴビ自動車との販売提携が不正発覚のきっかけになったということですね？

記者3 野中次長、国内販売された新車は何台なんですか？

記者5 木須部長にお聞きしたいんですが、不正は意図的だったんですか？

記者1 今まで買われたお客様への補償はどうするんでしょうか？

記者2 イチバ自動車はアイレを何台生産したんでしょうか？

記者4 電気自動車における燃費を電費というそうですが、本来の電費とどのくらいの乖離があったんでしょうか？

記者5 リコールということで間違いないでしょうか？

記者1 ゴビ自動車との販売提携が不正発覚のきっかけになったということですね？

記者4 社長は開発計画をどこまで把握されていたんでしょうか？

記者3 町田社長ご自身、アイレの航続距離に不正があったと認めるんですね？

一瞬間。

記者2 不正の内容と経緯を教えてください。

転換。

【シーン8 イチバ】

木須が出てくる。

続いて立実が出てくる。

立実 町田社長の発言を聞いたら、カワマツエナジーが全部悪いと言ってるように聞こえました。

木須 もう終わったの？

立実 どうなんですか？

木須 それは正しい理解です。そう受け取ってもらえるような原稿にしたから。

立実 だったらそれはおかしいと思います。そう仕向けたのはうちです。イチバ自動車が無理な計画を立てなければ、こんなことにはならなかった。

木須 またそれ。問題はそういうことじゃない。私たちは騙されたのよ。カワマツに。目標をクリアしてない電池を納入されたの。これは紛れもない事実。

立実 されたんじゃない。させたんです。問題はそうさせてしまった我々にあるんです。

木須 立実主任。あなたはわざわざイチバ自動車の評判を落とすような発表を自らすべきだと言ってる？

立実 そうです。このままだとカワマツさんの信用問題になります。

木須 そんなことは知りません。じゃあ私たちの信用は？

立実 もちろん一時は落ちるでしょう。でも誠心誠意謝罪し、業務改善策などを講じ、起きた問題に真摯に対応すればいつかは認めてくれます。

木須 誰が？

立実 世間です。

木須 いつかっていつ？

立実 私たちにはカワマツエナジーとは比較にならないほど、たくさんのステークホルダーがいます。彼らのことを考えたら、そんなことはできません。

立実 彼らのことを考えるからこそ、正確に話をすべきです。今こそ社の体質改善を宣言して信用を取り戻しましょう。

木須

いったん落ちた信用はなかなか戻りません。先人たちが築いた信用をあなたは軽く考えすぎてる。もつと大人になってください。

立実

大人です私は。だからちゃんとしたいんです。隠ぺいなどせず、ちゃんと話をするのが大人にとつて何より重要だと思っから。

木須

大人には大人の事情がある。正直者がバカを見る世の中じゃない。なに、そんな青臭いこと言ってるの。

立実

私に言わせれば、大人になってほしいのは経営であり、木須部長、あなただ。

木須

私？

保身ばかり考えてるじゃないですか。そんなに役員になりたいですか？

木須

女性初の役員に内定してるそうですね。：アイレの華麗なるデビューの立役者ですからね。何もしてないのに。：よかったですね。不正発覚の前に内定してて。心からお祝いの言葉を申し上げます。ぜひとも木須役員には、社会に対して責任あるイチバ自動車にしていたください。そして何より、社員が誇りに思うような会社にしていただきたい。木須役員には無理ですかね？

立実

：逆。パワハラってご存知？

木須

部下による上司いじめです。今の暴言、コンプラ室

立実

に言えば、間違いなく懲戒処分になります。

木須

どうぞ言ってください。：下請けを信じて待つだけが元請けの役割だと思いません。丸投げするんじゃない

立実

：逆。パワハラってご存知？

木須

部下による上司いじめです。今の暴言、コンプラ室

立実

に言えば、間違いなく懲戒処分になります。

なく、一緒に悩んで解決する方法をお互いの立場で考えるのが役割だと思います。：今までお世話になりました。辞表は後ほどお持ちします。

立実、颯爽と退場する。

野中

(袖から) 片付けを手伝いもしないで、どこ行っただんだ。：おい。

野中、張本、別府が登場する。

別府

臨時部会、すぐ始めますよね？

野中

ほっとけ。(木須に) 撤収、完了しました。

木須

ご苦労様。

別府

(木須に) 立実主任、呼んできましたようか？

木須

コンプラ室に行ってきます。臨時部会は30分後に始めます。

野中

わかりました。

張本

しばし間。

野中

お疲れさまでした。

張本

ホントに疲れたよ。

野中

：そう見えないんですけど。疲れたけど楽しかったからな。

別府 なんすかそれ。
野中 大勢の記者に囲まれたら。だから自分が芸能人にな
った気分になったんだよ。
張本 芸能人？
野中 すごい興奮した。
別府 超エクスターシーすね。
野中 (笑)ここ数年多いだろ。不倫会見。そういう感じ
だった。
別府 でも野中次長、独身じゃないすか。
野中 独身でも不倫会見はできる。
別府 そりゃあ相手が不倫だったら、そうですね、その
可能性ありますか？
野中 おい、それひどくねえか。
張本 あの、さすがに2人とも、不謹慎じゃないですか。
野中 今、うちの会社、世間からバッシングされてるんで
すよ。航続距離の記載に不正があったって。
張本 だから謝罪会見を開いたんじゃないか。
野中 芸能人になった気分って。
張本 別にいいだろ。ここに記者はいないんだから。ここ
だけの話だよ。
張本 ……
別府 僕はいい会見だったと思います。
野中 だろ。俺もそう思う。何より木須部長のシナリオが
よかった。
張本 え？私はちよっと、被害者みたいな発言が多すぎて、
野中 そうなのかなって思いましたけど。
野中 は？なんで？

張本 張本の携帯が鳴る。
張本、スマホの画面を見て、
すいません。
野中 と言って外に電話しに行く。
別府 実際、被害者なんだからいいよな？俺たちはカワマ
ツに騙された。
野中 いいと思います。立実主任と張本さん、いい人なん
すよ。
別府 まあな。
野中 記者会見中、ずっと怒ってましたからね。事実と違
う事実と違うって。いい人なんだなあって思いまし
た。
野中 いい人なのはいいが自己中すぎる。余計なことを言
うと、周りに迷惑掛かることをわかってない。ステ
ークホルダー全体のことを考えてないんだ。
別府 視野が狭いすよね。あ、そうだ。おでとうございま
す。
野中 ……
別府 聞きました。木須部長の後任人事。
野中 なんで知ってたんだよ？
別府 いいじゃないすか。僕なりの情報網があるんです。
野中 俺も最初は断ったんだよ。そんな器じゃないって。
野中 でもどうしてもって言われたら、仕方ないだろ。会
社のためにひと肌脱ぐかってなったわけよ。

別府 僕は、野中さんに昇格してほしいって思っていましたから、すごい嬉しいです。

野中 ありがとう。

別府 ホントにおめでとうございます。

野中 ちなみに誰から聞いた？

別府 だからいいじゃないですか。僕なりの情報網なんですって。

野中 CIAみたいだな。

別府 そんな大したもんじゃないす。

野中 その情報網、俺にも教えてくれ。

別府 嫌ですよ。

野中 ちなみに他は？

別府 他って？

野中 他の人事。その情報は聞いてない？

別府 ……立実さんと張本さんは変わりません。ステイだそ
うです。

野中 そうか。…お前は？別府はどうなんだ？

そこに張本が戻ってくる。

張本 すいません。保育園からの電話で、娘が熱を出した

野中 みたいなんです。早退していいですか。

別府 わかった。

張本 大変すね。

別府 はい。今朝もグズってて。大丈夫だろうって思った
のがいけなかったみたいですね。

野中 じゃあ臨時部会終わってから早退したいって俺から
木須部長に言うから。

張本 え？いや、今すぐ早退したいんですけれど。
（腕時計を見て）あと20分で木須部長が戻ってくる。

野中 大事な話らしいから、それ聞いてからにしろ。

張本 えー？なんですか？大事な話って。

野中 おそらく人事のことだろうな。

張本 人事？

野中 俺が言ったって言うなよ。…木須部長の役員内定が
オープンになるってことだ。

張本 え？

野中 木須部長がそう言ったら、初めて聞いた感じで頼む
な。

別府 わかりました。こう見えて僕、高校演劇やってまし
たから。

野中 （張本に）前に言ってた噂話、その通りになったな。

別府 噂話？

野中 木須部長が初の女性役員になるんじゃないかって。

野中 女同士で噂してたらしい。

別府 へえ。

野中 お前のCIAより早かったぞ。

別府 噂だったら僕も知ってましたよ。僕のCIAは確実
な情報だけを教えてくれます。

張本 あの、人事の話だったら、明日でもよくないですか。

野中 明日？

張本 明日改めて聞きます。娘が心配なんで帰らせてくだ
さい。

野中 おい、それはよくないだろ。人事こそ大事な話なん
だから。木須部長から直に聞くべきだ。な？

別府 はい。

張本 だったら私はスカイプでの参加にさせてください。
野中 あと20分で戻ってくる。スカイプを電車の中ででき
るわけではないだろ。

張本 人事の話をここで直接聞かなきゃいけない理由がわ
かりません。

野中 自分んとこの部長が役員になんだぞ。部のみんなで
「おめでとうございます」って真っ先に言うのは当
然だろ。それにずっといると言ってる。1時間く
らいいいじゃないか。

張本 子どもが熱を出したって言うてるのにな？

野中 だから1時間だ。そのくらい待てよ。あっちゃんも
保育園にいるんだから大丈夫だ。

別府 張本さん、テレビ会議反対派だったじゃないすか。
実際の会議じゃないと伝わらないことがあるって言
ってませんでした？

張本 覚えてない。そんなこと。

野中 俺ははりじゅんをすぐ買ってる。仕事ができるや
つだと思ってる。だから、なんかもったいないんだ
よな。

張本 なにがですか。

野中 もっと会社のことを優先する姿勢見せたら、間違い
なく上に行ける。っていうか俺が引く張る。

張本 上ってなんですか？

野中 役職だよ。上に行けば行くほど、社の重要な仕事を
任せられるようになるから、やりがいも給与も上が
る。そういうことだ。

張本 最近、野中次長の言ってることがわからなくなって
きました。

野中 は？

張本 昔はそうじゃなかったのに。

野中 俺は昔からこうだ。変わってない。

張本 今の台詞、立実さんが聞いたら、がっかりすると思
います。現場を大事にする人だったんじゃないんで
すか？

野中 現場は大事だ。それは今でもそう思っている。でも
現場あつての会社じゃない。会社あつての現場だ。
会社は生き残るために必死だ。敵はグローバルだ。
現場とは違う遥か高いレイヤーで経営判断しないと
競争に負けてしまうんだ。わかるよな？だったら社
員は、まず会社の幸せ第一に考えるべきだと俺は思
う。

張本 私は私なりに会社に貢献したいと思ってます。私の
幸せは家族です。家族が幸せじゃないと働く気持ち
になれません。

野中 家族は大事だ。それでいい。だが会社が幸せじゃな
いと社員も幸せになれないのも事実だ。リストラ、
減給、無理な働き方、いやだろ？だったら社員はま
ず会社の幸せを考えるべきだ。すなわち成長であり、
部会だ。

張本 なんで部会なんですか？

野中 部会こそ会社だからだ。

暗転。

【シーン9 カワマツ】

暗転明けると、応接セットが片付けられている。
デスクの外線が鳴り続けている。
真野、ひとりで対応している。

真野

(電話) はい。カワマツエナジー、オートモーティブ事業部です。…すみません。取材は広報を通してもらえますか。(切る)

デスクの外線が鳴る。

真野

(電話) はい。カワマツエナジー、オートモーティブ事業部です。…その件に関してはお答えできません。(切る)

デスクの外線が鳴る。

真野

(電話) はい。カワマツエナジー、オートモーティブ事業部です。…すみません。こちらでは取材をお受けしていません。(切る)

一息ついてまた外線。

真野

(電話) はい。カワマツエナジー、オートモーティブ事業部です。…ああ、茂弘役員、お世話になります。はい、真野です。お元気ですか?…それはよかったです。…ああもうその件は言わないでください。私は本社で働けるタイプじゃありません。お2

人のほうが相応しいと思いましたが。…ご用件は?…すみません。それはお断りします。今、うちの課、人がたくさんいるので、出向を受け入れる余裕ないんです。…はい。すみません。…はい。

デスクの電話の内線が鳴る。

真野

別の電話が入ったんで、またにしてももらえますか。…小榎次長にもよろしくお伝えください。…はい。すみません。(切り替える) はい。オートモーティブ事業部。…今から?わかりました。では3階に通してください。(切る)

真野、応接セットの上を片付けたり。

エレベータ到着の音。
やがて立実が入ってくる。
手に紙袋を持って。

真野

立実さん!ご無沙汰してます。えーお元気ですか?元気です。ホントにご無沙汰してます。あのカラオケのとき以来ですかね。

立実

1年ちよい前ですね。
真野さんもお元気そうですね。
真野さんもお元気ですよ。なんせこの部署、私ひとりですからね。

立実

下で聞きました。ランニングマン、上達しました?

真野

いやーまあそれはちょっと。すみません。今から採用面接で人が来るんで、ちょっとお待ちいただけますか？

張本

(電話) はい。パワーユニット開発部です。：張本です。お疲れ様です。：はい。少々お待ちください。(電話口を押さえ、野中に) 野中部長、木須役員です。

立実

：すぐ終わるんで。お話しする時間ありますよね？

野中

(電話) 代わりました。野中です。：はい。あ、その件は手を打っています。お任せください。：はい。：ゴビ自動車さんもカワマツエナジーには今後一切発注しないと断ってしまいました。：わかりました。お待ちください。(電話口を押さえ、別府に) 別府次長、木須役員が話をしたいそうです。あ、はい。

立実

ここで私を雇ってください。この会社に、この事業部に、そして真野さんとの仕事に、私はやりがいを感じています。是非ともよろしくお願いします。

別府

と言って別府、電話を受け取る。

終業BGMが鳴る。

立実

山登りは好きなんです。一緒に登れば、きっと楽しくなります。よろしくお願いします。

NA

6時になりました。今日はノー残業デーです。10分後に全館消灯します。業務に区切りをつけてみなさん早く帰宅しましょう。今日も一日お疲れさまでした。

立実

こちらこそです。あ、これお土産です。

と言って紙袋を差し出す。

突然SEが入る。

野中、別府、楽しそうに帰る。

張本、ひとり黙々と仕事を続ける。

立実、真野も楽しそう。

そこに野中、別府、張本が入ってくる。同時に

内線が鳴る。

溶暗。

幕。